

委員会名	委員長	2024年度 事業内容	今後の事業内容
スラローム	中井忠則	<p>○JWA JAPAN PROTOUR 2024-2025 FOIL SLALOM 第1戦 浜の宮カップ2024</p> <p>○JWA JAPAN PRO TOUR 2024-2025 FOIL SLALOM 第2戦 TSUKUIHAMA CUP 2024</p> <p>○JWA JAPAN TOUR 2024-2025 FIN SLALOM第1戦 掛川クラシック2024</p> <p>○JWA JAPAN PRO TOUR 2024-2025 アマチュア全日本スラローム選手権</p> <p>○JWA JAPAN PRO TOUR 2024-2025 FIN SLALOM 第3戦 浜名湖カップ2025</p>	<p>今シーズンのJWAスラロームツアーは、新たな試みや開催地の拡大により、さらに活気を増しています！中でも注目は、淡路島での初開催が決定したことです。風光明媚な新たな舞台でのレースに、選手・関係者ともに大きな期待を寄せています。また、「全日本アマチュアスラローム（通称：全アマ）」も各地で大いに盛り上がりを見せており、地域ごとの熱意が全国規模でつながってきていることを実感しています。フィンカテゴリーでは若手選手の台頭が目立ち、競技の層もより厚くなってきています。新規参加選手も増加傾向にあり、スラロームという競技の魅力が確実に広がってきていると感じています。さらに、今シーズンも大会のライブ配信が継続されることが決まりました。これからも、より多くの皆さまに楽しんでいただけるツアー運営を目指し、選手と運営が一体となって大会を盛り上げてまいります。</p>
ウェイブ	吉武雅博	<p>○JWA WAVE CHALLENGE/AMA ランキング戦2024-2025 波崎ウェイブクラシック2024</p> <p>○JWA WAVE CHALLENGE 波子ウェイブクラシック2024</p> <p>○JWA WAVE CHALLENGE WAVE CHALLENGE@大東</p> <p>○JWA WAVE CHALLENGE/PRO-AMAランキング戦2024-2025第1戦 コールドブリーズプロアマトーナメント</p> <p>○JWA WAVE CHALLENGE/PRO-AMA ランキング戦2024-2025 第24回全日本WAVE選手権2025</p> <p>○JWA WAVE CHALLENGE/PRO-AMA ランキング戦2024-2025 ウィンターカップ2025</p>	<p>ウインドサーフィンのWAVE種目では、競技者同士がつながり、楽しみながら交流できるコミュニティづくりを通じて、競技人口の拡大と技術向上を目指しています。特に若い世代を中心に技術の向上が著しく、ベテラン世代の選手たちにも良い刺激となり、全体のレベルが底上げされています。全日本WAVE選手権では、ドローンを活用した迫力ある空撮映像によるLIVE配信を行い、自宅からでも臨場感あふれる観戦が可能となりました。今後はさらに、コンテスト形式ならではの面白さや盛り上がり方の工夫にも取り組んでいく予定です。現在、JWA WAVE委員会が主催する大会は、いずれもスポンサーのいない状態で開催されています。今後は大会や選手を通じて製品やブランドをアピールできるような、企業とのパートナーシップを築いていきたいと考えています。つきましては、ご支援・ご協力いただける企業様のご紹介を、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
フォイル・フォミュラ	香村治彦	<p>○JWA JAPAN PROTOUR 2024-2025 UP FOIL 第1戦 蒲郡カップ2024</p> <p>○JWA JAPAN PROTOUR 2024-2025 UP FOIL 第3戦 浜名湖カップ2024</p>	<p>今年度は、夏場の比較的風が弱くなる時期に集中してレース日程を集約しました。7月の横須賀津久井浜、9月の浜名湖。この2戦に短期集中し、大会に向けて最大限エントリー数を確保して盛り上げで行く方向に決定いたしました。また、9月の浜名湖に関しては、ウイングフォイルとのコラボレーションを現在企画中で、地元調整をして頂いている状況です。今後もアップウインド競技者の意向を確認しつつ、柔軟に対応しながら委員会運営を進めていきたいと思ひます。</p>

フリースタイル	小林悠馬	<p>昨年度はフリースタイルの公式戦を4戦開催し、うち3戦が成立しました。また、ANAウインドサーフィンワールドカップ横須賀・三浦大会では、風がない時間帯に、ジェットスキーで選手を牽引する「トーイン・フリースタイル・エキシビション」を実施し、多くの観客にウインドサーフィンの魅力を披露しました。</p> <p>○JWA JAPAN PROTOUR 2024-2025 FREESTYLE第1戦 ○TRICK'N TRY MOTOSUKO 2024 (JWA JAPAN TOUR 2024-2025 FREESTYLE 第2戦) ○JWA FREESTYLE CHALLENGE 2024-25 浜名湖フリースタイルミート2024 (中止) FREESTYLE FESTA ZUSHI 2024 ○JWA JAPAN PROTOUR 2024-2025 FREESTYLE第3戦 全日本フリースタイルトーナメント津久井浜大会 ○JWA JAPAN PROTOUR 2024-2025 FREESTYLE第4戦 TSUKASA 浜名湖フリースタイル選手権2024</p>	<p>フリースタイルは、風があれば通常のセーリング、風が弱ければトーイン形式で演技ができる柔軟な競技で、見た目にも華やかで観客にアピールしやすいのが特長です。大会以外でもイベントなどでのパフォーマンスを通じて、プロ選手の活動の幅が広がっています。中学生のプロ選手も活躍しており、若い選手層が特徴です。4年連続チャンピオンの守屋選手や、すべての種目で優勝経験を持つ杉匠真選手は、フリースタイルのW杯でもトップ10に入る実力を持っています。今シーズンもすでに始まっており、JWA JAPAN PRO TOUR第1戦となる「フリースタイルフェスタ逗子2025」では、約4,000人の観客の前で演技が行われました。今後は、年間4戦に加え、ワールドカップでのトーインイベントやフリースタイルクリニックも予定されています。</p>
ウインドサーファー クラス	作野達雄		<p>ウインドサーファー艇は、1980年に絶頂期を迎えた後、一時はブームが落ち着いたものの、近年ではヨーロッパやオーストラリアを中心に往年のウインドサーファーたちが再び乗り始めるなど、復活の兆しを見せています。昨年スペインで開催された世界選手権では200～300名の参加者が集まり、大いに盛り上がりました。国内においても、2027年に和歌山セーリングセンターで開催されるワールドマスターズゲームズの正式種目にウインドサーファー艇が選ばれたことを受け、現在、委員会メンバーと和歌山県連が連携しながら準備を進めているところです。この大会には国内外から多くのウインドサーファーにご参加いただきたいと思います。ウインドサーファー艇は、ワールドマスターズゲームズ以外でも国内レースへの参加や日常のセーリングでも十分に楽しめるクラスです。ぜひこの機会にウインドサーファー艇の魅力に触れてみてください。</p>
学連	井上天心	<p>昨年度は主要な全国大会として8月26～28日にプリンセスカップ、11月15～17日に全日本学生ボードセーリング選手権、3月5～7日にインカレ新人戦の運営をいたしました。また、それら大会の予選会や、地方大会の運営も行いました。大会の運営以外にも安全講習会やジャッジ資格の取得、広報活動、会計など学連全体のための仕事に努めました。</p>	<p>本年度も上記全国大会やそれに伴う各地方支部戦、地方大会の運営を主な活動の中心として予定しています。</p> <p>基本的には昨年度と同様の活動を行っていく予定です。</p>

国スポ		<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSAF国スポ委員会との連携・情報共有</li> <li>・国スポウインドサーフィン級のクラスルール一部改正</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・JSAF国スポ委員会との連携・情報共有</li> <li>・国スポウインドサーフィン級のクラスルール大幅改正</li> </ul>
計測		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国スポ大会及びリハーサル大会での計測</li> <li>・国スポウインドサーフィン級、テクノ293級、iQFOiL級各公式計測員の認定・整理</li> <li>・ERS公式計測員講習受講</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国スポ大会及びリハーサル大会での計測</li> <li>・アジア大会プラクティス大会の計測対応</li> <li>・アジア大会本大会への計測対応準備</li> </ul>
強化 ジュニアユース			<p>今後のジュニア、ユース育成強化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内で実施されているナショナルシリーズの中に「チャレンジクラス」を導入し、競技の普及・育成・人材発掘を推進していきます。</li> <li>・ジュニアおよびユース選手には、JWA／NTTが実施する練習会への参加を促し、強化を図ります。</li> <li>・地域のウインドサーフィンショップと連携し、JWA主催の練習会などへの参加を働きかけています。練習会では艇数に限りがありますが、道具のチャーター体制も整備しています。</li> </ul>
協力医師	大数加光治	<p>2025.1.12ALL JAPAN WAVE CLASSICSにおいて風待ち選手向けに怪我の予防や応急手当ての指導を行う。</p> <p>2025.3.10琵琶湖の海難事故に関するの学生向け安全講習会資料作成。</p>	今年度活動については未定だが、随時委員会からの要望に応じて対応
安全	野口貴史	<p>JWA安全委員会は、安全対策の重要性を訴えています。事故はいつ、どこで起こるかわかりませんし、絶対に起きないという保証もありません。大会やイベント時だけでなく、日常的に海に出る際にも、常に危険と隣り合わせであることを意識することが大切です。海に出る前には、以下の確認を徹底しましょう。気象・海象のチェック、体調の確認、道具の点検、仲間の把握、連絡手段の確保、そして状況判断力。さらに、万が一他者に怪我を負わせてしまうなどの事故が起きた場合に備えて、適切な保険に加入しているかの確認も重要です。JWA会員には保険が付帯されています。風力で動くウインドサーフィンは、泳いで救助に向かうことが困難なスポーツです。そのため、安全対策としては、自らを守る「セルフマネジメント」と、他のウインドサーファーと助け合う「共助」の両方が不可欠であると、JWA安全委員会は呼びかけています。各浜に救助体制があることから、「ウインドサーフィン＝安全管理が求められるスポーツ」という認識が広まりにくい現状があります。しかし、私たちはその現状に対して危機感を持っており、スクールやイベントを開催する際には、二次災害を防ぐためにも、レスキュー艇の配備やレスキュー団体の確保が不可欠であることを広く周知しています。プロ登録の際には、安全講習の受講を義務化し、さらに「船舶を操ること＝救助ができる」という誤解を正すことで、ウインドサーファーひとりひとりが救助に関する専門的な知識を深め、海岸線の安全を維持することの重要性を広く伝えています。安全委員会では、ウインドサーフィン中の事故を減らし、不幸な事態を未然に防ぐため、JWAを通じて、誰もが安心して楽しめる環境づくりを目指しています。</p>	
水域	代表者	報告なし	提言なし